

LESSON NOTES

Advanced Audio Blog S5 #17 Top 10 Japanese Historical Figures: Minamoto no Yoshitsune

CONTENTS

- 2 Kanji
- 2 Kana
- 4 Romanization
- 5 English
- 6 Vocabulary
- 7 Sample Sentences
- 7 Grammar

17

KANJI

1. 源義経
2. 「悲劇の英雄」として知られている源義経の名前を皆さんは聞いた事があるでしょうか。今回は、数多くの逸話とその悲劇的な人生によって大変有名な人物、源義経を紹介したいと思います。
3. 義経は1159年に源氏の家に生まれました。当時は平安時代後期で、権力の中心が貴族から武士へと移行していた時期。平氏と源氏という武士の二大勢力が台頭しますが、この二つの勢力は常にいがみ合い、戦を繰り返します。
4. 義経の父は義経が二歳のときに、平氏との戦に敗れ亡くなってしまいます。身の安全を図るために義経は寺に預けられますが、16歳のとき僧になることを嫌い寺を飛び出し、源氏と縁の深かった藤原秀衡を頼り奥州平泉（現在の岩手県）に向かいました。義経の非凡さを見抜いた秀衡は義経をかくまい息子同然に育てたとされています。
5. 数年後、義経の腹違いの兄、源頼朝が平氏打倒の声を上げたと聞き、義経は頼朝の元に駆けつけます。兄、頼朝のために献身的に働き、数々の戦で大きな功績を残した義経の人気は当然うなぎのぼり。が、皮肉なことにその人気故に頼朝から疎まれ、命を狙われてしまうことに。
6. 兄から追われた義経は、再び秀衡を頼り平泉に向かいますが、間もなく秀衡は病死。その後、秀衡の息子の裏切りにあい、屋敷を包囲されてしまった戦の天才・義経は戦うことなく、自害してその31年の短い生涯を閉じました。
7. このような悲劇に満ちた義経の生涯は、多くの人々の同情を呼び、当時義経が判官という役職についていたため、彼に同情する気持ちのことを、判官鼻肩（ほうがんびいき）と言うようになりました。現在では、判官鼻肩は、弱者・敗者に同情し味方する気持ちのことを指します。

KANA

CONT'D OVER

1. みなもとの よしつね
2. 「ひげきの えいゆう」としていられている みなもとの よしつね のなまえを みなさんは きいたことがあるでしょうか。こんかいは、かずおおくのいつわとそのひげきてきなじんせいによってたいへんゆうめいなじんぶつ、みなもとのよしつねをしょうかいしたいとおもいます。
3. よしつねは1159ねんにげんじのいえにうまれました。とうじはへいあんじだいこうきで、けんりよくのちゅうしんがきぞくからぶしへといこうしていたじき。へいしとげんじというぶしのにだいせいりよくがたいとうしますが、このふたつのせいりよくはつねにいがみあい、たたかいをくりかえします。
4. よしつねのちちはよしつねがにさいのときに、へいしとのいくさにやぶれなくなってしまう。みのあんぜんをはかるためによしつねはてらにあずけられますが、16さいのときそうになることをきらいてらをとびだし、げんじとゆかりのふかかったふじわらのひでひらをたよりおうしゅうひらいずみ(げんざいのいわてけん)にむかいました。よしつねのひぼんさをみぬいたひでひらはよしつねをかくまいむすこどうぜんにそだてたといわれています。
5. すうねんど、よしつねのはらちがいのあに、みなもとのよりともがへいしだとうのこえをあげたとき、よしつねはよりとものもとにかけつけます。あに、よりとものためにけんしんてきにはたらき、かずかずのいくさでおおきなこうせきをのこしたよしつねのにんきはとうぜんうなぎのぼり。が、ひにくなことにそのにんきゆえによりともからうとまれ、いのちをねらわれてしまうことに。
6. あにからおわれたよしつねは、ふたたびひでひらをたよりひらいずみにむかいますが、まもなくひでひらはびょうし。そののち、ひでひらのむすこのうらぎりにあいて、やしきをほういされてしまったいくさのてんさい・よしつねはたたかうことなく、じがいしてその31ねんのみじかいしょうがいをとりました。

CONT'D OVER

7. このようなひげきにみちたよしつねのしょうがい、おおくのひとびとのどうじょうをよび、とうじよしつねがほうがんというやくしょくについていたため、かれにどうじょうするきもちのことを、ほうがんびいきというようになりました。げんざいでは、ほうがんびいきは、じゃくしゃ・はいしゃにどうじょうしみかたするきもちのことをさします。

ROMANIZATION

1. Minamotono Yoshitsune
2. "Higeki no eiyū" to shite shirarete iru Minamoto no Yoshitsune no namae o mina-san wa kiita koto ga arudeshō ka. Konkai wa, kazuōku no itsuwa to sono higekiteki na jinsei ni yotte taihen yūmei na jinbutsu, Minamotono Yoshitsune o shōkai shitai to omoimasu.
3. Yoshitsune wa 1159-nen ni Genji no ie ni umaremashita. Tōji wa Heian-jidai kōki de, kenryoku no chūshin ga kizoku kara bushi e to ikō shite ita jiki. Heike to Genji to iu bushi no ni-dai seiryoku ga taitō shimasu ga, kono futatsu no seiryoku wa tsuneni igamiai, ikusa o kurikaeshi masu.
4. Yoshitsune no chichi wa Yoshitsune ga ni-sai no toki ni, Heishi to no ikusa ni yabure nakunatte shimaimasu. Mi no anzen o hakaru tame ni Yoshitsune wa tera ni azukeraremasu ga, 16-sai no toki sō ni naru koto o kirai tera o tobidashi, Genji to yukari no fukakatta Fujiwarano Hidehira o tayori Ōshū Hiraizumi(genzai no lwate-ken) ni mukaimashita. Yoshitsune no hibonsa o minuuta Hidehira wa Yoshitsune o kakumai musuko dōzen ni sodateta to iwarete imasu.
5. Sūnengo, Yoshitsune no harachigai no ani, Minamotono Yoritomo ga Heishi datō no koe o ageta to kiki, Yoshitsune wa Yoritomo no moto ni kaketsukemasu. Ani, Yoritomo no tame ni kenshinteki ni hataraki, kazukazu no ikusa de ōki na kōseki o nokoshita Yoshitsune no ninki wa tōzen unagi nobori. Ga, hiniku na koto ni sono ninki yueni Yoritomo kara utomare, inochi o nerawarete shimau koto ni.

CONT'D OVER

6. Ani kara owareta Yoshitsune wa, futatabi Hidehira o tayori Hiraizumi ni mukaimasu ga, ma mo naku Hidehira wa byōshi. sono nochi, Hidehira no musuko no uragiri ni ai, yashiki o hōi sarete shimatta, ikusa no tensai, Yoshitsune wa tatakau koto naku, jigai shite sono 31-sai no mijikai shōgai o tojimashita.
7. Kono yōna higeki ni michita Yoshitsune no shōgai wa, ōku no hitobito no dōjō o yobi, tōji Yoshitsune ga hōgan to iu yakushoku ni tsuite ita tame, kare ni dōjō suru kimochi no koto o, hōgan biiki(hōgan biiki) to iu yōni narimashita. Genzai de wa, hōgan biiki wa, jakusha, haisha ni dōjō shi mikata suru kimochi no koto o sashimasu.

ENGLISH

1. Minamoto no Yoshitsune
2. Everyone, have you ever heard the name of Minamoto no Yoshitsune, who is well-known as a tragic hero? This time I want to introduce this Minamoto no Yoshitsune, someone who is incredibly famous due to many legends and his tragic life.
3. Yoshitsune was born in the year 1159 into the house of Genji. It was the end of the Heian period, and the center of power was moving from the aristocracy to the samurai. Two rival powers, the Heike and the Genji, come to the fore, but these two powers are locked in a constant struggle, and they meet in battle over and over again.
4. Yoshitsune's father was defeated in battle with the Heike and died when Yoshitsune was two years old. For his protection, Yoshitsune was left in the care of a temple, but at the age of sixteen, disliking the idea of becoming a priest, he fled the temple and set out for Ōshū Hiraizumi (modern-day Iwate prefecture) in order to ask for the help of Fujiwara no Hidehira, who was close to the Genji clan. It is said that Hidehira, who recognized Yoshitsune's extraordinary talent, sheltered Yoshitsune and brought him up just like a son.

CONT'D OVER

5. A few years later, on hearing that his elder brother by a different mother, Minamoto no Yoritomo, had raised the cry to overthrow the Heike, Yoshitsune rushed to Yoritomo's side. As Yoshitsune worked devotedly for the cause of his elder brother Yoritomo and performed great deeds in numerous battles, naturally his popularity soared. However, ironically, it was this very popularity that caused him to be shunned by Yoritomo and for Yoritomo to make an attempt on his life.
6. Pursued by his elder brother, Yoshitsune once again asked for Hidehira's help and turned for Hiraizumi, but shortly after he arrived there, Hidehira died of illness. Following this, betrayed by Hidehira's son, his residence under siege, the genius tactician Yoshitsune committed suicide without engaging in battle, putting an end to his short life of thirty-one years.
7. Yoshitsune's life, full of tragedies such as these, aroused the sympathy of many people, and due to the fact that at the time Yoshitsune had the position of magistrate, the feeling of sympathizing with him became known as "favoring the magistrate." Nowadays, "favoring the magistrate" is used to refer to the feeling of sympathizing with and supporting a weak or losing party.

VOCABULARY

Kanji	Kana	Romaji	English
裏切り	うらぎり	uragiri	betrayal, treachery
悲劇	ひげき	higeki	tragedy
同然	どうぜん	dōzen	same, similar to;Adj (na)
功績	こうせき	kōseki	achievement, attainment
味方	みかた	mikata	ally, supporter
非凡	ひぼん	hibon	rare, extraordinary;Adj(na)
同情する	どうじょうする	dōjō suru	to sympathize, to pity;V3
献身的	けんしんてき	kenshinteki	devoted;Adj(na)

英雄	えいゆう	eiyū	hero
うなぎのぼり	うなぎのぼり	unagi nobori	rapid promotion, soaring

SAMPLE SENTENCES

<p>裏切りとは何なのか私には分かりません。 <i>Uragiri to wa nan na no ka watashi ni wa wakarimasen.</i></p> <p>I don't know what "betrayal" is.</p>	<p>悲劇が起こった。 <i>Higeki ga okotta.</i></p> <p>A tragedy unfolded.</p>
<p>おじは私にとって父親も同然です。 <i>Oji wa watashi ni totte chichioya mo dōzen desu.</i></p> <p>My uncle is like a father to me.</p>	<p>彼は、功績を認められて、昇給した。 <i>Kare wa kōseki o mitomerarete shōkyū shita.</i></p> <p>He earned a raise for his achievements.</p>
<p>私は犬を味方につけた。 <i>Watashi wa inu o mikata ni tsuketa.</i></p> <p>I have a dog as an ally.</p>	<p>イチローは非凡な才能を持っている。 <i>Ichirō wa hibon na sainō o motte iru.</i></p> <p>Ichirō has a rare talent.</p>
<p>彼はお母さんの死のことで彼女に同情していた。 <i>Kare wa o-kā-san no shi no koto de kanojo ni dōjō shite ita.</i></p> <p>He sympathized with her on the death of her mother.</p>	<p>母は献身的に父の看病をした。 <i>Haha wa kenshinteki ni chichi no kanbyō o shita.</i></p> <p>My mother devoted herself to caring for my father.</p>
<p>私は英雄になろうと思う。 <i>Watashi wa eiyū ni narō to omou.</i></p> <p>I'm going to be a hero.</p>	<p>チョコレートの価格がうなぎのぼりになった。 <i>Chokorēto no kakaku ga unagi nobori ni natta.</i></p> <p>The price of chocolate soared.</p>

GRAMMAR

Motoko: オーディオブログ第5シーズン第17課 「源義経」

Tomoyuki: こんにちは。ともゆきです。

Motoko: こんにちは。もとこです。歴史上の人物第二回目です。

Tomoyuki: 今回紹介する人物は誰ですか？

Motoko: 源義経です。Tomoyuki: では、聞いてみましょう。

ブログ本文

Motoko: 壮絶な人生ですね。義経は日本人に最も人気がある人の一人なんじゃないかなと思うのですが、ともゆきさん、「源義経」は知っていますよね。

Tomoyuki: はい。勿論です。

Motoko: 「義経」と聞いて、思い浮かぶことは何ですか。

Tomoyuki: うーん、京都の三条大橋での「弁慶」という人との戦いですね。

Motoko: たしか、一対一の戦いですよ。

Tomoyuki: そうです。それで二人が戦って、弁慶が負けるんですね。で、その後弁慶が味方についたんです。もとこさんはどうですか。

Motoko: うーん。私は「義経」よりも、お兄さんの「頼朝」の方が印象深いですね。

Tomoyuki: ああ、鎌倉に幕府を開いた人ですよ。

Motoko: そうですね。学校だと、義経よりも、頼朝について勉強しますからね。あ！でも、「義経」は小さい時、牛若丸という名で美少年という話は聞いた事があります！

Tomoyuki: 女性は、「美少年」に弱いですからねー

Motoko: そうですね。

Tomoyuki: 。でも、もとこさんの夢を壊して申し訳ないんですが、

Motoko: なんですか。

Tomoyuki: 実際の義経は背が低くて、歯が欠けている、不細工な人だったらしいですよ。

Motoko: ええー！！！！そうなんですか？

Tomoyuki: 戦が天才的に上手だったのは本当みたいですけど。世の中平等にできていますね。

Motoko: でも夢がないですよ。

Motoko: 義経と関係ある言葉として、ブログで「判官鼻眞」(ほうがんびいき) という言葉が紹介されていますね。

Tomoyuki: これは、「はながんびいき」と読む場合もあるみたいですね。意味は、「弱い人や負けた人に対して味方する気持ち」のことだそうですが…とても難しい言葉ですね。

Motoko: そうですね。リスナーの皆さんは聞いた事があるでしょうかね。ちょっと説明する必要があるかもしれません。

Tomoyuki: そうですね。

Motoko: まず、「ひいき」というのは「ある人に味方すること」ですね。「えこひいき」は聞いたことがあるリスナーの皆さんもいるかもしれませんね。

Tomoyuki:「えこひいき」は感情的に、ちゃんとしていない理由で、誰かの味方をするこ
とですよ。

Motoko:そうですね。でも、判官(「ほうがん」あるいは「はんがん」というのはあまり聞
かない言葉ですが…。

Tomoyuki:ブログでもあるように判官というのは役職のことだそうです。ちょっと調べ
てみたんですが、たいてい武士に与えられる役職で、警察みたいなことをする仕事だそ
うです。

Motoko:あ、そうなんですかー。戦上手な義経には、ぴったりの仕事ですね！

Motoko:それから、頼朝と仲が悪くなった後、義経は奥州平泉に助けを求めたそうで
すが、この奥州平泉というのは、今の岩手県にあって、2011年にユネスコの世界文化遺産
に認定されました。ともゆきさんは平泉へは行ったことがありますか？

Tomoyuki:残念ながらありませんが、最近テレビで何回か見ました。岩手県の平泉は、中
尊寺金色堂という建物が有名ですね。金箔で覆われている建物です。

Motoko:建物が全部「金」で覆われているなんてすごいですよね。ドンだけお金があったん
でしょうかね。

Tomoyuki:この建物からだけでも、平泉の藤原氏がとても強い力を持っていた事が分か
りますね。

Motoko:ちなみに、この中尊寺金色堂はマルコ・ポーロというイタリア人の冒険家がヨー
ロッパに日本を紹介する時に取り上げられたそうですよ。

Tomoyuki:「黄金の国、ジパング」ですね。

Motoko:そうですね。あと、平氏と源氏の最後の戦いがあったのが、「壇ノ浦」という場所
なんですが、その壇ノ浦がある「山口県下関市」に義経の銅像があるそうです。

Tomoyuki: はい、僕も銅像があるというのは知っていますが、見たことはないんで
すよね。

Motoko:そうですね。私も行ったことないんですよ。

Tomoyuki:そうなんですか。日本の観光地というと東京や京都が有名ですが、一風変わ
った日本旅行をするのに岩手県の平泉や山口県は良いかもしれませんね。

Motoko:今回は悲劇の人生を生きた源義経を紹介しました。

Tomoyuki:日本の文化やブログについての質問があったらどしどし聞いてください。そ
れでは、また。 Motoko:さようなら